☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１９

神戸新聞　令和元年７月２６日（金）

全国へ２人出場の快挙

氷上西高ライフル射撃部 中垣さんと芦田さん

28日から広島「悔いないよう力出し切る」

28日から広島県安芸太田町で開かれる「第57回全国高校ライフル射撃競技選手権大会」に、氷上西高校（丹波市青垣町佐治）ライフル射撃部３年の中垣諒太さんと、芦田太路（たいろ）さんが出場する。２人同時の全国大会出場は同校初の快挙。高校最後の大会へ向け、２人は「悔いの残らないよう力を出し切る」と活躍を誓う。（大田将之）

全国大会へ向けて意気込む中垣諒太さん＝氷上西高校

出場種目は「男子ビームライフル立射競技」。重量約4キロの光線銃を使い、10メートル先にある直径約4・5ミリの的の中心を狙う。制限時間は45分で60発分の合計点数を競う。

主将を務める中垣さんは、6月の県総体を3位（23人出場）で突破。全国では、自己ベストの617・6点を超える620点を目指す。

8強入りを目標に掲げて挑んだ今春の全国大会では、19位と高いレベルにはね返された。県内では有数の実力者だが、「お山の大将でした」と力不足を痛感。

「野球でいうと、当たれば飛ぶけど三振が多い一発屋だった」と自己分析し、夏に向けてはミスショットを減らすため一発ずつの精度を高めてきた。

「地道な努力から目を背けてきたが、最後の大会を前に気づくことができてよかった。生まれ変わったプレースタイルで結果を残す」と自信をのぞかせる。

一方、芦田さんは初めて全国の舞台に立つ。県総体では最後の一発で的のほぼ中心を射貫き、10・8点（10・9点が最高）を記録して5位に入った。6位と0・8点差というぎりぎりの戦いを制し、最後の一枠をつかんだ。「最後の一発は無我夢中で記憶がありません」と振り返る芦田さんは、「終盤に集中が乱れる。全国には、『逆境でこそ決める心の強さ』を持って臨みたい」と意気込む。